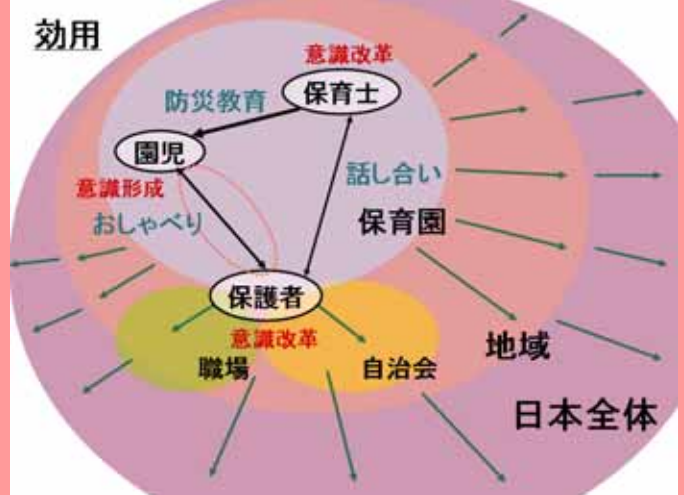
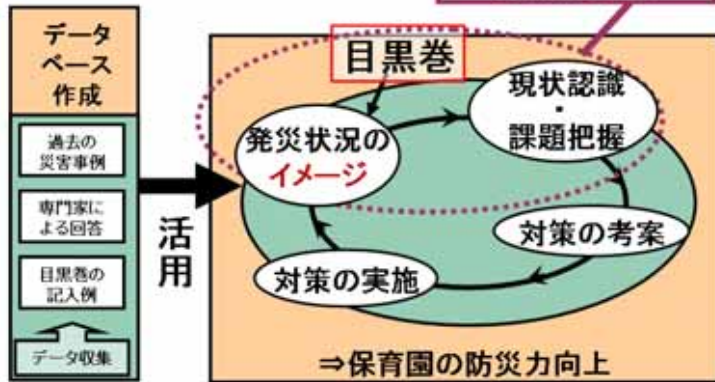


はじめに・・・保育園は幼い子供達の集まる災害弱者集団なので、地震、火事、不審者侵入等の予測のつかない危険が発生した時、園の大人にかかる負担はとても重い。この問題に対応するためには、従来の自治体主導によるトップダウン型対応だけでなく、防災情報の共有や人材育成といった事前の防災対策を重視した活動を各園が自主的に行う必要がある。そこで、保育園が自主的な防災対策を行うきっかけ作りとなる防災ワークショップを立案し、モデル保育園で実践・効果検証した。

保育園での継続的な防災対策サイクルの確立



災害に備え、かつ起こった時に機敏に対処するためには、**イメージトレーニング**が不可欠！

目黒巻...
災害状況イメージーションツール『目黒メソッド』を、『**短時間で楽しくわかりやすく**』行えるよう簡略化したもの。災害時に起こり得様々な状況を**自分自身の問題としてイメージ**するためのツール。

目黒巻の記入用紙

災害発生後の状況を**イメージ**し、自分を主人公とした物語を作る

災害の種類を設定

地震 目黒巻 震度6強 地震発生 TIME ⇨ a.m.10:30 10秒 1分後

記入日 2005.1.29(土)

設定 地震発生時の状況 「どこで何をしていたか」等

季節 冬 天気 晴れ

時刻 a.m.10:30

記入者 生産研太

災害発生時の条件を設定

園児 保護者

子供たちを広い所にあつめ、大人二人で囲んで守る。揺れが収まったら園にTE

散歩先で園児と遊んでいる。(大人2人 0~1歳児 6人)

災害時の状況を記入

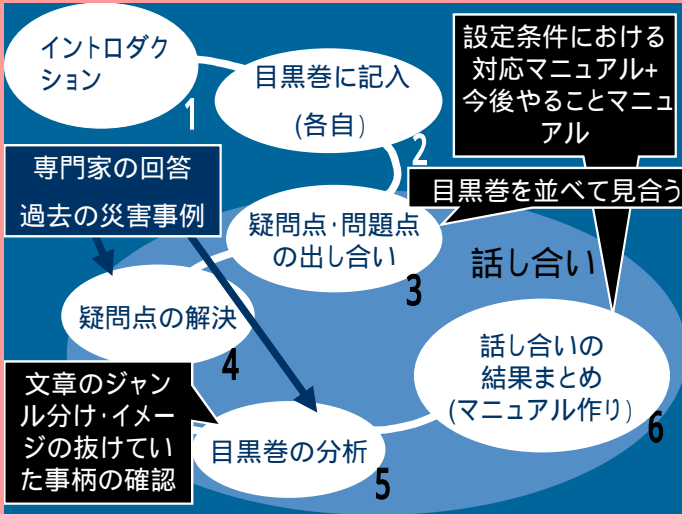
目黒巻WSのオリジナリティー① 「自分が防災の主人公」



目黒巻WSのオリジナリティー② 「楽しく防災」

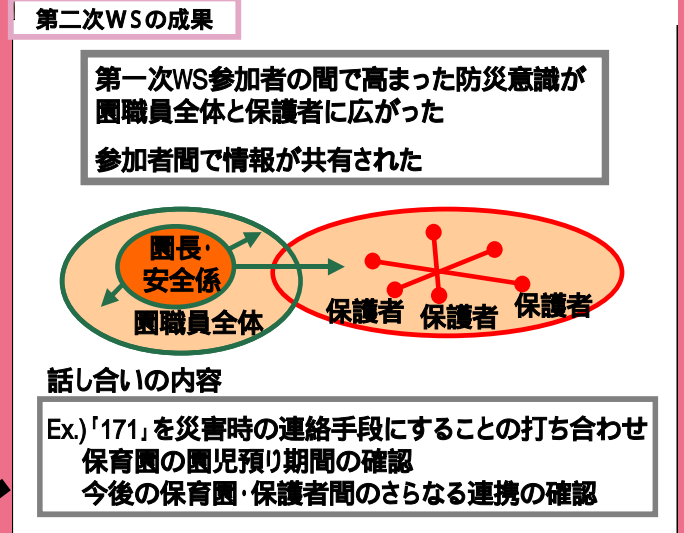
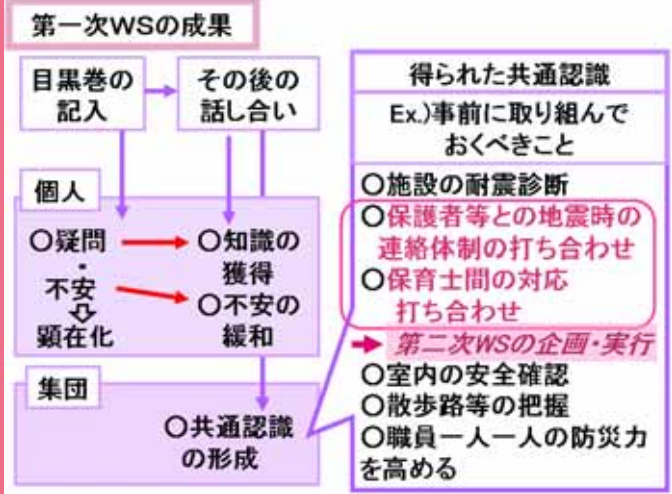


目黒巻ワークショップの流れ



目黒巻WSでは・・・参加者各自で書いた目黒巻を机に並べて見せ合うことで話す糸口をつかみ、記入中に気づいた疑問点や問題点を出しあい、専門家の意見や過去の災害事例を参照しながら解決していく。WSの形式は、持ち時間や参加者の意識の程度等の状況に応じて柔軟に変えられる。

具体的には・・・世田谷区のモデル保育園を対象に、二度にわたり**大地震**を想定した目黒巻WSを行った。WSを行う前に、まずモデル保育園で数週間保育士として働き、現場の状況を把握した。並行して、過去の災害事例（**阪神・淡路大震災**と**新潟県中越地震**）を調査し活用した。



+ ... 目黒巻を書くのが二回目の方からは「一回目に書いたときよりスムーズにイメージできた」という感想が得られ、イメージトレーニングの効果が検証できた。また、家具の転倒防止等、家庭での防災対策を行おうという意識も高まった。

まとめ・・・「保育園が主人公の防災」のきっかけ作りをする**目黒巻WS**の立案と、モデル園での実践・効果検証を行った。
今後の目標・・・ モデル園でさらに継続的な防災対策システム作り
他の保育園や幼稚園、老人ホームなどへの目黒巻WSの普及

目黒巻をやりたい方は・・・ 目黒研ホームページ(<http://risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp/>)から、記入用紙と説明書がダウンロードできます